

【リンクはご自由にお貼りください】

【有償配布 及び Web（ホームページ、ブログ、facebook 等）へのアップロードや転載はおやめください】

・「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟（福岡地裁）・第2回期日（20200217）で提出された書面です。

令和元年（ワ）第2827号 「結婚の自由をすべての人に」訴訟事件

原告 原告番号1（こうすけ）、原告番号2（まさひろ）

被告 国

## 原告意見陳述要旨

2020（令和2）年2月17日

福岡地方裁判所 第6民事部合議B係 御中

原告 まさひろ

### 記

#### 1 友達から「気持ち悪い」と言われたこと

私は、高校生の時に、男性を好きになる自分に気がつきました。

携帯電話の検索で、そういう男性のことをゲイと言うらしい、ということも知りました。

高校2年生の時、友達に、「俺ゲイなのかも」と、打ち明けました。友達がみんなそうしていたように、秘密を共有したり、恋愛話をしたりしたい、そんな気持ちからでした。

友達は、「うわ、気持ち悪い。」と言いました。

私は、瞬間的に、「失敗した」と思いました。「冗談だよー」と笑って、なんでもないことのように取り繕いました。

同時に「僕は、気持ち悪い存在なんだ」と、心の底から思いました。

それからは、ゲイである自分を隠して、誰からも距離を取って過ごしました。

高校2年のあの日の景色と、友達の様子は、未だに忘れることができません。

【リンクはご自由にお貼りください】

【有償配布 及び Web（ホームページ、ブログ、facebook 等）へのアップロードや転載はおやめください】

・「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟（福岡地裁）・第2回期日（20200217）で提出された書面です。

## 2 大学生になっても、誰にも打ち明けられなかったこと

大学に入学をしてからは、サークル活動に夢中になりました。

仲間と一緒に、家族よりも長い時間を共にして、練習に打ち込みました。青春らしい、楽しい時間でした。

そんな仲間にさえも、自分がゲイであることだけは打ち明けられませんでした。打ち明けると、友達を失うと思っていました。

恋愛感情も持たないように、自分を注意深くコントロールしていました。

「みんなは異性が好きでいいよね」、「恋愛話ができる、楽しいよね」と、妬みに近い気持ちが湧いてくることもありました。

## 3 社会人としての生活が過酷なものだったこと

社会人になってからは、職場の人達から、「彼女いるの?」、「早く相手を見つけてなさい」、「男は結婚して一人前だ」と言われました。

私は、必死でごまかし、嘘をつきました。

話題を打ち切るために、「彼女がいる」と言いました。

すると、「どんな彼女?」、「彼女を紹介してよ」と追及されました。

架空の彼女の説明に疲れて、「彼女と別れた」と言うと、「合コンに来る?」、「どんな子がタイプ?」と問われ、今度は、架空の「好きなタイプの女の子」について説明をしなくてははいけませんでした。

こんな会話は、異性愛の人にとっては、よくあることなのかもしれません。親切心から言っているのだろうとも思います。

けれど私には、「お前は普通じゃない」と言われているように、聞こえました。

ストレスで体調も悪くなり、出勤前に、玄関のドアノブを握ったまま、動けなくなったこともありました。

【リンクはご自由にお貼りください】

【有償配布 及び Web（ホームページ、ブログ、facebook 等）へのアップロードや転載はおやめください】

・「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟（福岡地裁）・第2回期日（20200217）で提出された書面です。

#### 4 母親へのカミングアウト

社会人になって2年目の夏、母親にカミングアウトをしました。

そのころ私は、「周りの親戚達と、同じように、結婚をしたり、子どもをもったりすることはできない」と感じていました。

私の両親は、私に何かを押し付ける人たちではありません。それでも何も言わずにいることに、親を騙しているかのような罪悪感を覚えました。

私は、駐車場に停めた車の中で、母に、言葉を絞り出しました。

「孫の顔は見せてあげられんのよね。好きな人が男の人やけん。」

心臓がギュッとして、手も汗ばんで、ハンドルも握れないほど緊張していました。

私は、「おかんの育て方が悪かったせいではないから」、「生まれながらのものだから」と、必死に説明しました。自分がゲイであることで、母に自分を責めて欲しくありませんでした。

母は、「わかったよ」と笑顔で言ってくれました。

その言葉を聞いて、「生きていていいんだ」と感じました。

このとき、はじめて今まで、どれだけ自分のことを、「気持ちが悪い」、「普通ではない」、と否定してきたのか、どれだけ不安と緊張の中にいたのかということに気が付きました。

「もう、嘘をつかずに生きていこう」と思いました。

その日から、自分のことを話せる相手が、少しずつ増えていきました。

#### 5 こうすけさんと人生を切り開いてきたこと

2017年に、こうすけさんと知り合い、交際し、一緒に生活をしはじめました。

当時、こうすけさんは、母親にしかカミングアウトをしていませんでした。

私は、こうすけさんが傷つかなくていいように、ごく少数の、信頼できる人た

【リンクはご自由にお貼りください】

【有償配布 及び Web（ホームページ、ブログ、facebook 等）へのアップロードや転載はおやめください】

・「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟（福岡地裁）・第2回期日（20200217）で提出された書面です。

ちにだけ、こうすけさんを「彼氏」だと紹介しました。

こうすけさんは、驚きながらも、少しずつ、心を開いていってくれたように思っています。

その後も私達は、2人で一緒にいることに勇気を得て、自分たちなりに、2人の人生を切り開いてきました。

パートナーシップ宣誓をし、自宅を購入し、婚姻届を書きました。

お互いの家族同士の顔合せもしました。私の父親が、乾杯の音頭をとり、それぞれの母親が、「もう親戚が増えることはないと思っていたのに、こうして増えて、嬉しい」と喜びあってくれた時には、涙があふれそうになりました。

今年は、私達の結婚式も挙げようと思っています。たくさんの友達が、出席をしたいと言って、楽しみにしてくれています。

「どんなに思い描いても、絶対に手にできない」と思っていた人生が、手を伸ばせば、届きそうなところにまで見えてきました。

## 6 他の人にはある権利が、自分達には認められていないこと

それでも、私達は、法律的には、ただの他人でしかありません。

私達が家を買った時、同性パートナー同士では、一緒に住宅ローンを組むことができず、ローンも家の名義も、こうすけさん1人の名義にせざるをえませんでした。こうすけさんに、もしものことがあった時、法律上、私は、「何の権利もなく他人の家に住んでいる」立場になってしまいます。

去年の夏、信号停車中の私の車に他の車がぶつかってきたことがありました。幸い、大きな怪我はしませんでした。私達のどちらかに何かあった時に、残された方はどうなるのかと、それまで以上に、切実に考えるようになりました。

「もし私達が、結婚できていたら、こんな心配や苦労をしなくてよかったのに」と思うことは、たくさんあります。

「どうして、異性どうしだと紙1枚ですぐにできる結婚が、私達だとできない

【リンクはご自由にお貼りください】

【有償配布 及び Web（ホームページ、ブログ、facebook 等）へのアップロードや転載はおやめください】

・「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟（福岡地裁）・第2回期日（20200217）で提出された書面です。

のか」、私は、どうしても納得ができませんでした。

人を好きになって、恋愛をして、家族を持って、助け合って生きていきたいと思う気持ちは、お互いの性にかかわらず、同じだと思います。

そうやって、2人で生きていこうという人達や、その人達が築いた家族を、社会の一部だと認めて、守っていくための制度が、結婚なのではないでしょうか。

それなのに、どうして同性どうしのカップルだけを特別に排除して、「あなたたちの人生だけは守らない」、「あなたたちは、一生、他人どうしとして生きていきなさい」と言われたいけないのでしょうか。

## 7 この裁判にかける思い

そんな理不尽をなくすために、私は、こうすけさんと一緒に、この裁判をおこすことにしました。

私にとって、それは、とても勇気のいることでした。友達から、「気持ち悪い」と言われた、思い出だけで身体が痛むような過去を、人に話すことにも、強い迷いがありました。

それでも、私は、好きな人が同性でも、異性でも、同じように守られる社会を実現したいです。そのために、辛い過去も、思い出したくない記憶も、何度でも、何度でも、前に出て語ろうと決意しました。

今の社会には、私のように、「もしかしたら自分は、同性を好きかもしれない」と感じて、誰にも本当のことを言えず、未来も描けず、必死にもがきながら、生きている子ども達がたくさんいると思います。

私とこうすけさんの未来を勝ち取ることで、その子達に、早く、不安のない毎日や、明るい未来を見せてあげたい。

そういう強い思いで、私は原告になりました。

そんな未来は、すぐそこに来ていると信じています。

以上